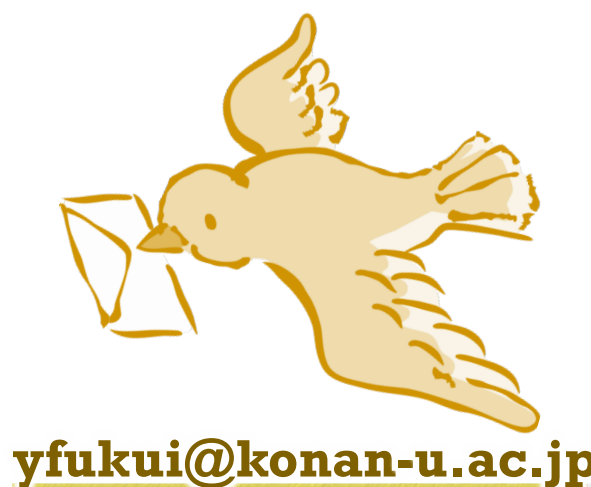


Yahoo!知恵袋への相談内容から見る HSP（Highly Sensitive Person）概念の社会的受容の変遷

○福井義一¹・中谷智美²・澤田 戒²（¹甲南大学・²甲南大学大学院人文科学研究科）



背景

HSP（Highly Sensitive Person）

= 「感覚処理感受性」が高い人々（Aron & Aron, 1997）



「**織細さん**」として
一大ブームに

本来のHSP概念とは違う
伝わり方が生じて、不利益を
被る人がいる可能性（飯村, 2023）

「HSP」概念の受容と広がり
についての現状把握が必要

X（旧Twitter）における 自称HSP当事者の研究

（イムラ, 2020; 飯村, 2023）

HSPカウンセラー
@hsp-counselor
※これはイメージ画像です。

自称カウンセラー
として活動

HPS @hpspsurai・X月X日
生きづらい・・・
※これはイメージ画像です。

生きづらさ
を吐露

HSP関連書籍タイトルの分析



・HSPによる「生きづらさ」を
抱えた当事者向けの本

・HSP特性との付き合い方に
焦点を当てた当事者や家族向けのハウツー本

・生きづらさの説明概念として、扱うテーマや
読者層を変えて増殖する中で学術的概念と乖離
（福井・杉森, 2023; 水野・水野, 2023; 中谷・福井, 2024）

問題

書籍タイトルには、**売る側**に都合のいいHSPイメージが
反映されているにすぎず、HSPに悩む**一般の人々**が
有するHSPイメージとは程遠い可能性

→Yahoo!知恵袋の相談内容には当事者や周囲の人々など
一般の人々のHSPイメージが反映されているのでは？

目的

Yahoo!知恵袋に投稿されたHSPに関する相談内容に、共起ネットワーク分析と
多次元尺度構成法（MDS）を適用し、一般の人々が有するHSPイメージを把握

方法

使用データ

※国立情報学研究所のIDRデータセット提供サービスによりLINEヤフー株式会社から提供

Yahoo!知恵袋データ第3版のうち、HSPとその
同義語を含む相談521件を分析に使用

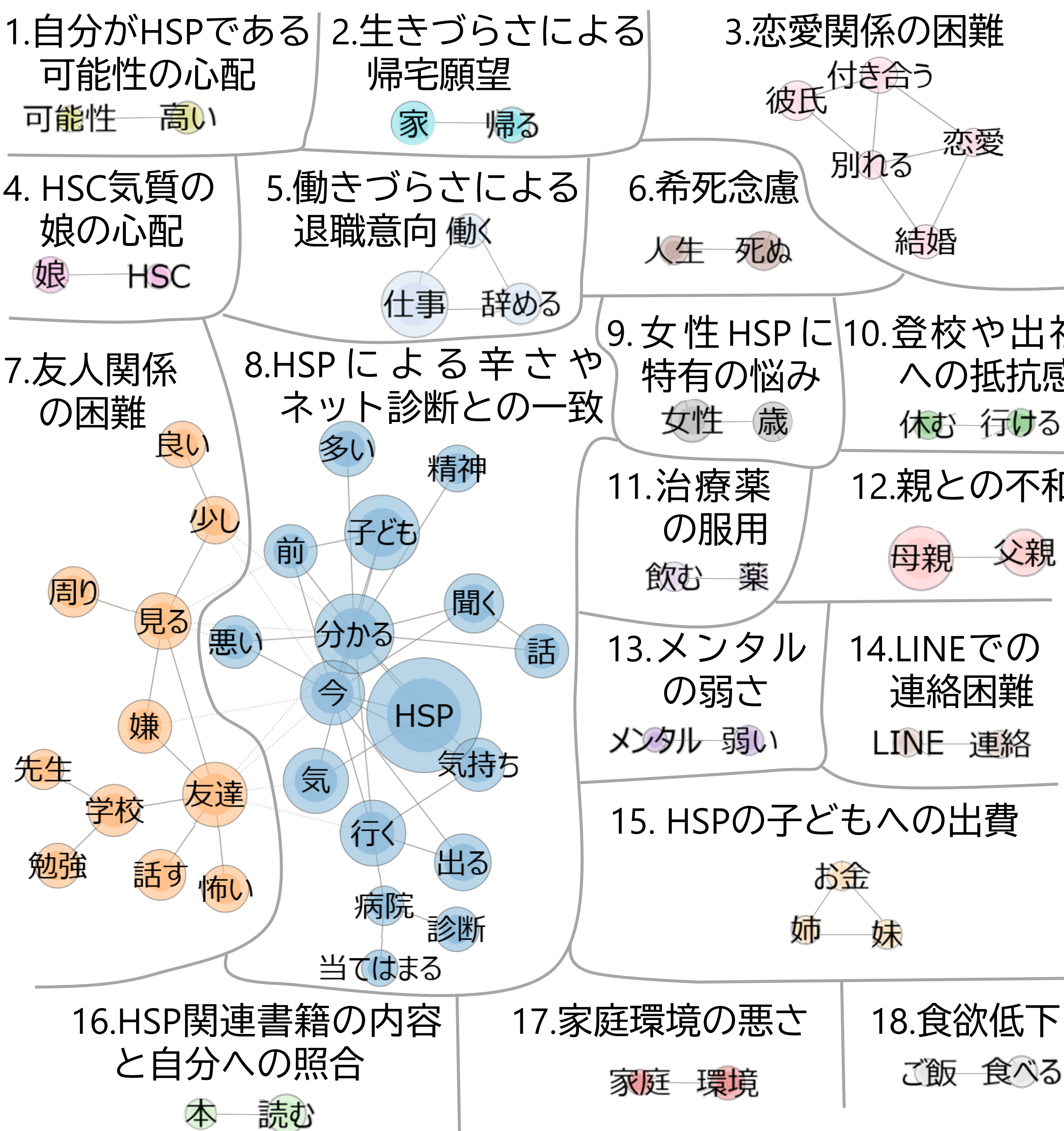
※2017年から5年分の相談の10%をランダム・サンプリング

分析方法

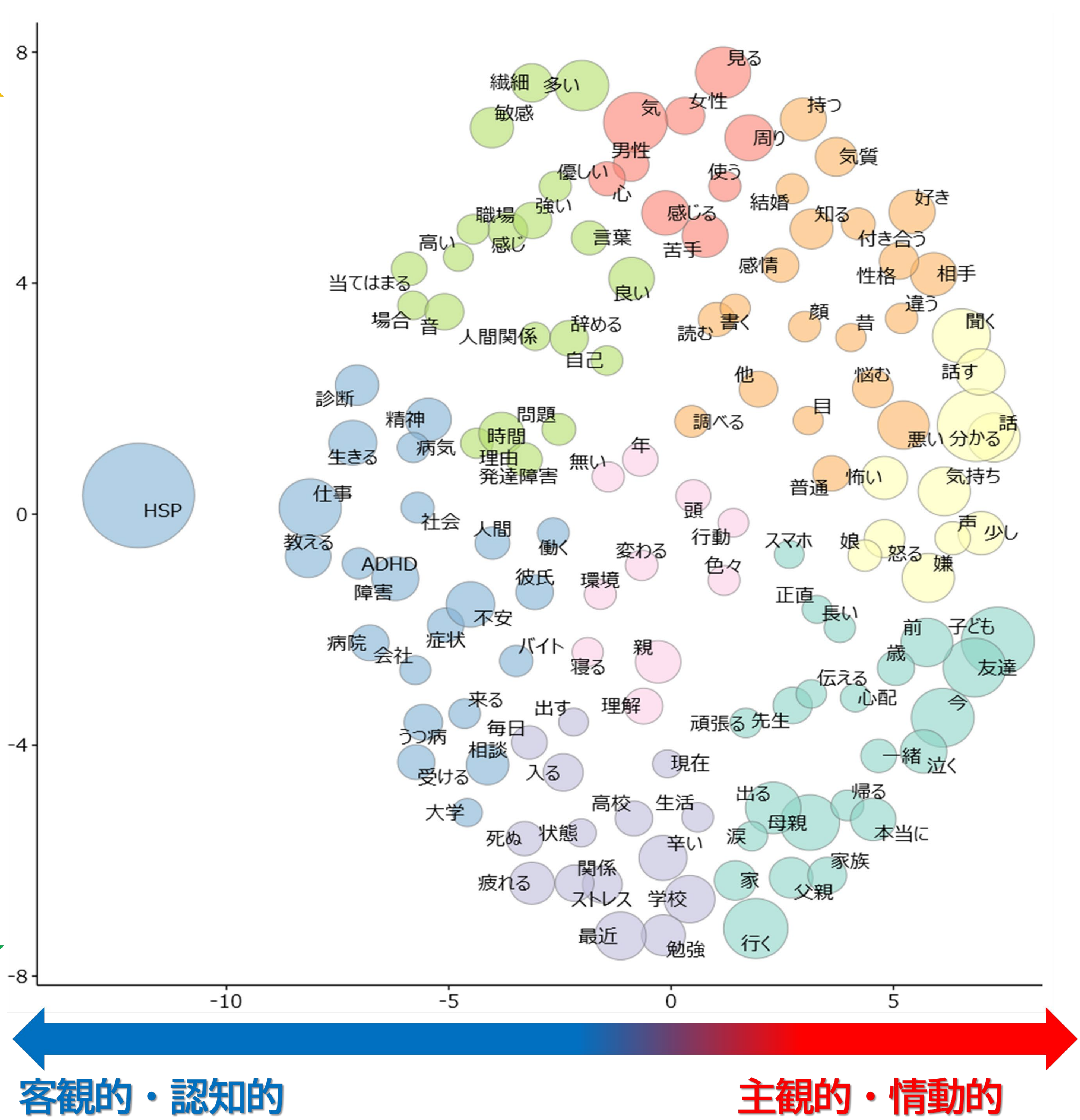
KH Coder（樋口, 2020）により、出現頻度23以上の288語を
用いて **共起ネットワーク分析**と **多次元尺度
構成法（MDS）**を適用

結果

共起ネットワーク分析の結果



多次元尺度構成法（MDS）の結果



考察

- ・家庭や職場を問わず、あらゆる人間関係や生活状況における「**生きづらさ**」を説明する概念として、HSP概念が積極的に受容されていることが伺える。
- ・多くの相談者は、一般向け書籍やオンライン診断のような**信頼性が低い情報源**に頼っている。

- ・歪曲・誇張されたHSP概念が、学術的見地からの裏づけや修正の機会がないオンライン上のコミュニティにおけるコミュニケーションによって、一定方向に急速に拡大されるプロセスが垣間見られたと言える。
- ・専門家の立場から、**正確な情報の発信**が求められる。